

# 落成式

古新田  
にて

4・26

まがやま共育共働センター

# アースゼロ

□発行所 社会福祉法人弘徳学園

さっす...

入装後ではむく、夢にまで見たこの日がやってきました。デイサービスセンターはまがやまは、14年前の2000年（平成12年）の4月に産声を上げ、在宅で生活する「障害」の重い利用者に、活動や労働の提供をしてきました。この間、福祉制度の変化に振り回されながらも、「人として対等にかかわること」を支援の中心においた試行錯誤の毎日はずっと続いています。

## 2つの名前

その中で、一日も早く実現したかったことが2つありました。一つは「アースゼロ」。もう一つが「ショートステイ」。これは、さまざまな開所当初からの、本人・家族にとっては念願であり、事業所・職員にとっては使命でした。自分までの迷いは、介護度の高い「障害」者と家族を、「時間までに集合場所に遅れず」に連れて行かない「くちや」というストレスから解放することであり、在

宅生活にゆとりを得る上で欠くことのできないサービスです。が、車両の数、職員数、コース取り、送迎時間のハードルが超えられませぬ。毎年、今年こそはと思いつつ挫折をくり返し、利用者・家族には迷惑をかけ続けた3年間でした。

ショートステイの必要性は、今さら言うまでもありませんが、すまいる利用者の家族の要望は、2階建てでした。緊急時の受け入れは言うに及ばず、その支援を、本人をよく知る日中支援の職員にやってほしいというものです。当たり前と言えは、至極当たり前の考えだと思えます。すまいるでショートステイができないか、何とかチャレンジしたことが

あります。その都度大きなババが立ちふさがりました。ショートステイする建物に入浴設備がなければ、事業はできないのですが、設備基準には利用者の「特性に合った」ものであればよしと解釈できる内容だったので、シャワー室設置で事業ができないものか、市の担当部署に相談したのですが、浴槽がなければ、不可との回答に頓挫してしまっただけです。

## あらたな一歩

でんでんの開所は、この2つを同時に解決します。ただ、2つの宿題を解決する為だけの事業所では、もちろんありません。でんでんは、田田であり、事業所立地地域の「古新田」からいたりました。地域の人達に受け入れられ愛されるよう、この地で、共生という実りを育てられるよう名付けました。

また、「共育・共働センター」と大きく出たのは、利用者と事業所・職員が、支援する側される側の精神的垣根を越えられないかと、新たな目標を掲げたのです。

今回の落成式が、あらたな関係作りのスタートの日になれば、ハッピーです。

(重利政志)

とびきりの感謝の気持ちさため

